

検査研究

輸血製剤管理業務一元化の評価と効果について

坂本千賀子 伊藤亮二 加藤光宏 平間斎枝 篠原美穂

はじめに

当院では従来、輸血製剤管理業務においては薬剤部が製剤管理、臨床検査科が輸血検査を担当し2部門で実施していた。平成11年7月より輸血製剤管理業務が全て臨床検査科に移管、一元化された。

移管前の輸血業務は、看護部、薬剤部、臨床検査科といった職種の連携によって行われ、薬剤部と臨床検査科の二元管理のため輸血に関わる看護部職員の動線は長くなり、伝票、検体、製剤の流れは複雑化していた。移管後は、血液検査担当技師2名がルーチン検査（血算、凝固線溶系、血液型判定）のほか、コンピュータ化された24時間対応輸血業務システムを用いてMAP（人赤血球濃厚液）、FFP（新鮮凍結人血漿）、PC（人血小板濃厚液）の管理を主体とした輸血に関する総合的な業務を実施している。

そこで移管後1年を経過したことを機会に、輸血製剤管理業務移管に対する看護部職員の評価をアンケート調査により把握し、分析した。

対象と方法

対象は病棟6単位、合計145名の当院看護部職員とした。

調査方法は質問紙によるアンケート調査とし、調査期間は平成12年3月13日から平成12年3月24日とした。

結果

今回のアンケート回答率は、83.4%であった。移管したことについて「良かった」79%、「わからない」20%、「良くなかった」1%であった（図1）。

移管して良かった理由について「動線および作業時間が短くなった」71%、「ロット番号の手書き作業がなくなった」17%、「検査科が製剤の血液型を確認するので安心できる」12%であった（図2）。

また、移管後、出庫された適合血バッグに患者属性ラベルが貼付してあることについて「良かった」95%、「わからない」5%、「良くなかった」0%であった（図3）。

移管後の輸血業務に費やす時間について「短縮できた」76%、「変わらない」12%、「わからない」12%であった（図4）。

「短縮できた」と回答した看護部職員のうち短縮できた時間は、「自分の看護業務のプラスになった」79%、「変わらない」9%、「わからない」12%であった（図5）。

Key Words : 輸血製剤管理、一元化、
アンケート調査

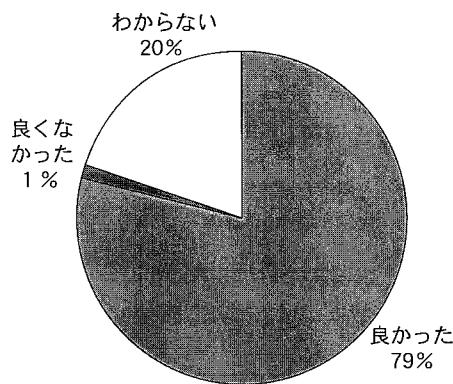


図 1 移管したことについて

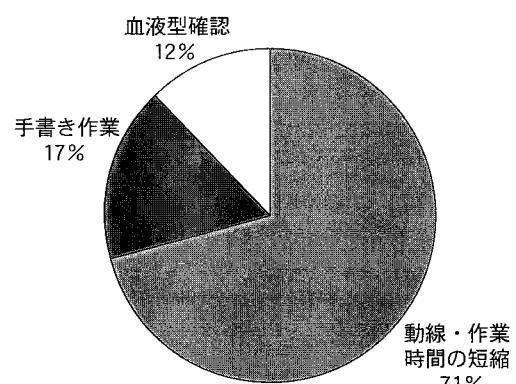


図 2 移管して良かった理由

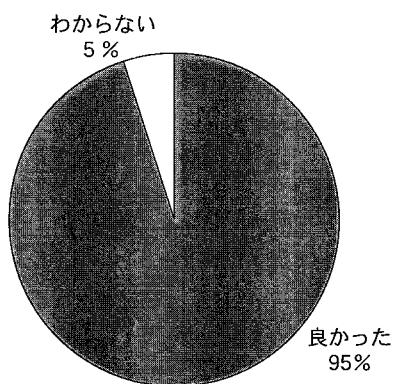


図 3 適合血バッグに患者属性ラベルの貼付について

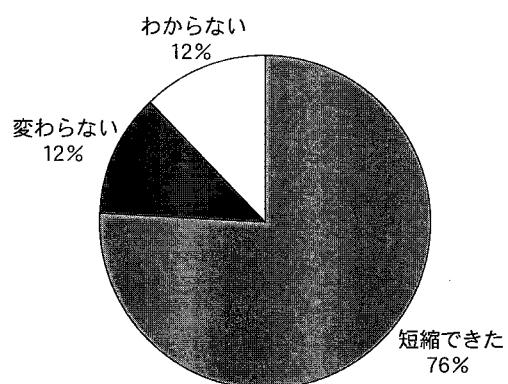


図 4 移管後の輸血業務に費やす時間について

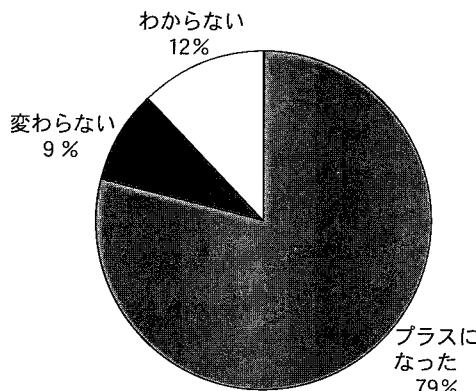


図5 短縮できた看護部職員のうち、
自分の業務にプラスになったか

考 察

臨床検査科による輸血製剤管理業務の一元化に伴い、コンピュータ化された輸血業務システムを導入したことで製剤備蓄量、患者属性、血液型、輸血歴などの情報は正確にデータ化され、安全で迅速な輸血検査と製剤提供が可能となった。また、血液バッグに貼付された患者属性ラベルや適合血出庫時のカルテをもとにした看護部職員と臨床検査技師による声だし確認などは「患者取り違え」、「製剤取り違え」を未然に防ぐ意味においても効果があったと考えられる。

今回のアンケート調査では、輸血製剤管理業務一元化により輸血業務に関わる動線と時間が短縮されたことで、「長い間、病棟を離れなくともよくなつた」、「時間がかかるなくなつたため、落ち着いて業務ができるようになり安全につながつた」などの意見があった。そして、短縮されたこれらの用途については「リーダーの指示受けに回せる」、「患者さんへの処置やコミュニケーション作りなどに費やせる」といった回答内容もあり短縮された動線によって生まれた時間は、他の看護業務に利用することができた。また、当科における輸血製剤の在庫管理法は、備蓄用を含め病棟および手術室に出庫中の製剤使用状況や保管状態などの管理を一括して行い、有効利用や緊急時の安定供給に対応していることなども輸血製剤管理業

務一元化の利点であると考える。

しかし、「製剤返却の問い合わせが早すぎる」、「希望する製剤の種類と数量があるかどうか不安である」との意見もあり、このような指摘事項については、今後、院内輸血療法委員会において協議、改善していく必要があると考える。

ま と め

今回、看護部職員を対象に輸血製剤管理業務移管に関するアンケート調査を実施した。移管後、看護部職員の輸血業務に関わる動線と時間が短縮され看護業務の軽減、省力化および医療過誤防止につながった。

本稿の要旨は、平成12年9月、第39回全国自治体病院学会（札幌市）において発表した

文 献

- 1) 大久保 進ほか：光学文字読み取り装置(OCR)を用いた当院輸血システムの開発と使用状況。医学検査43:72-78, 1994.
- 2) 谷脇清助：輸血業務の変遷と将来展望。医学検査47:1-7, 1998.
- 3) 中野正孝：看護研究のための統計学入門。医学書院, 1997.